

inochi 学生フォーラム 2019 報告

『私たちが減らす、心臓突然死。』

日本では **7.5 分に 1 人** が心臓突然死で亡くなっている。
今まさに、倒れている人がいる。今、救わなければ。
亡くなる人を、悲しむ人を、1 人でも減らしたいから。

BACKGROUND

心臓突然死とは、「症状の発現後24時間以内の死亡で、外因死を除いた自然死のうち、心臓の病気でおこるもの」のことです。日本でも多くの方が心臓突然死により命を落としています。現時点での対策は十分とは言えません。



心原性心停止の
目撃された割合
33%



目撃された心停止者への
AED 使用率
4.9%



目撃された心停止者への
蘇生実施割合
18.5%

出典：総務省消防庁 一般市民が目撃した心原性心臓機能停止傷病者のうち、一般市民による心肺蘇生等実施の有無別の生存率、社会復帰率（H29）

RECRUIT

「若者の力で、ヘルスケアを刷新する。」そんな強い思いをもった中高生・高専生からの今年度フォーラムへの参加を関西・関東で募ったところ、**総勢243名、計79チーム、26の中学校・高等学校・高等専門学校**からの応募がありました。そこから厳正な審査を行い、**総勢81名、計25チーム**を今年度フォーラムの参加者として選抜しました。

PROGRAMS

真にinnovativeなアイデアを創出するため、各界のトップランナーの皆様を講師としてお招きし、関西・関東それぞれで教育プログラムを実施しました。また、大学生メンターによるメンタリングデイも複数回にわたり開催しました。さらに今年度初の取り組みとして、inochi学生フォーラムの参加高校生・高専生約40名が「宇宙医療」という未知の領域、未来の医療に挑戦する「宇宙医療ハッカソン」も関東関西共同で開催。それらの様子の一部をご紹介します。



KICKOFF MEETING KANSAI



DESIGN THINKING DAY KANSAI



MENTORING DAY KANSAI



宇宙医療ハッカソン



COMMU×TECH DAY KANTO



最終選考会 KANSAI

この他、最先端施設見学 / 奨学金コンペティション / PRESENTATION DAY などの教育プログラムも実施しました。

RECORDS

inochi学生フォーラム2019参加の高校生・高専生たちが半年間の活動の末に考案した「心臓突然死を減らす」ためのアイデアを、一部抜粋してご紹介します。



最優秀賞

RED SEAT

夏野菜カレー（甲陽学院高等学校）

スポーツ観戦者のための対策がまだ十分でないという課題に着目。競技場に「RED SEAT」を導入することで、その座席に座った「RED SEATER」による迅速なAED使用を可能にし、誰もが安全にスポーツを楽しめる社会を目指します。



優秀賞

まもるまる

進撃の大谷ガールズ（大谷高等学校）

高校生に対するAEDの被使用率が、素肌を見たり触れたりする事への抵抗感から女性が28%も低いという現状を変えるべく、服を脱がなくても体を見ないで救命活動を行うことができる「まもるまる」を考案しました。

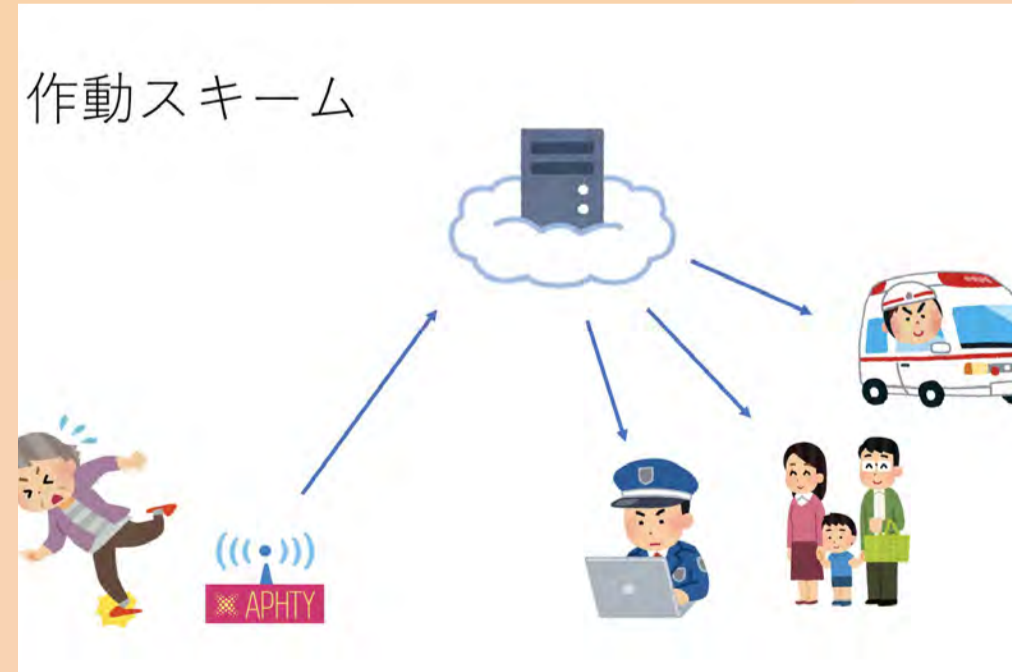


未来フォーラム登壇チーム

スプリーム・スリープ

すみっこんかつよしお（清風南海高等学校）

心停止直後56%の確率で起こる特徴的な呼吸である「死戦期呼吸」を迅速に発見できる機械を作成しました。夜間に職員が常駐している高齢者住宅に設置することで、心臓突然死の3分の1を占める睡眠中の突然死を減らします。



未来フォーラム登壇チーム

APHTY

succeed（都立日比谷高校）

トイレで過ごす時間は1日の4%であるのに対し、心臓突然死の11%はトイレで発生しています。そこで転倒音自動検知システム「APHTY」を使用し、転倒を即座に検知し発見までの時間を劇的に短縮します。

ADVISORS

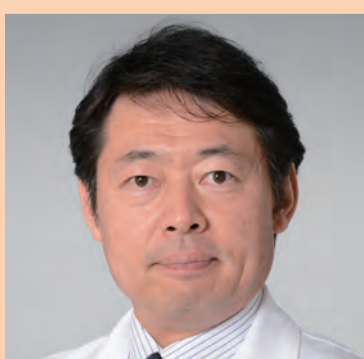
inochi学生フォーラム2019では多くの専門家の方々、大人の皆様のご協力を得ながらプロジェクトを行って参りました。



三田村 秀雄 先生
日本AED財団理事長



石見 拓 先生
京都大学環境安全保健機構
健康管理部門/
附属健康科学センター
(予防医療学分野)部門長
教授



武田 聡 先生
東京慈恵会医科大学
救命救急救急医学講座
主任教授



八木 雅和 先生
大阪大学大学院
医学系研究科
バイオデザイン学
共同研究講座
特任准教授



池野 文昭 先生
Stanford Biodesign
Advisory Director